

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0908
施設名	清新おひさま保育園
施設所在地	江戸川区清新町1-1-37
法人名	社会福祉法人 えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子ども達が夏の昆虫について興味を持っており、休みの日にカブトムシを捕まえた話が盛り上がっていた。その中で男児がカブトムシを持って来て皆で生育しようとなったことがきっかけとなった。

2. 活動スケジュール

・毎日の餌やり ・霧吹き掛け ・土の取り換え ・観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・昆虫マット ・昆虫シート ・昆虫ゼリー ・昆虫かご
・観察日記用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

興味のある子どもと一緒に昆虫を観察し毎日の餌やりを行った。

土が乾いている際には霧吹きを使って土を湿らせた。

かごの掃除

卵から幼虫になる過程を観察。

土の取り換え

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

土が乾いていることを毎日観察していたので気づけるようになり「先生今日はどうかな」と主体的に聞くようになった。毎朝登園しては「おはよう、げんきかな？」と覗き込んで「ご飯食べてるね」「今寝てるから静かにしてあげる？」などといった会話が増えた。

保護者へはおたよりや日々の様子などで知らせていきながら時に一緒に観察できる場を設けていった。ホームページのブログでも記載している。

卵から幼虫になる過程を保育士と一緒に観察する事が出来た。

今年は乾燥する日が多くこまめにふたを開け観察をしたり、虫かごを覗く回数を増やしていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の気づきによって発展する事も多く、子どもの声を聴き寄り添う事で観察や生育に関する気づきが広がった。夏場は暑く「カブト虫も暑いよね」と言いながらふたを開け毎日餌あげをした。昆虫が苦手な子どもも「カブト虫に餌をあげたい」と言って触ろうとし挑戦しようとする姿が見られた。保育士と一緒にいる事で不思議に感じたことなどもすぐに話し合う事が出来、分からない事に関しては皆で調べて納得するまで互いに話すようになった。

生育を通して命の尊さなども感じており、カブト虫が死んでしまうと「お墓をつくってあげよう」「餌が足りなかったかな」「お水もっとあげたらよかったかな」などと次につながる声が聞こえていた。